



- ふくい“的”な“適”応で暮らしをもっと豊かに -

FUKUTEKI



越前大野城（大野市）



雪不足に備える

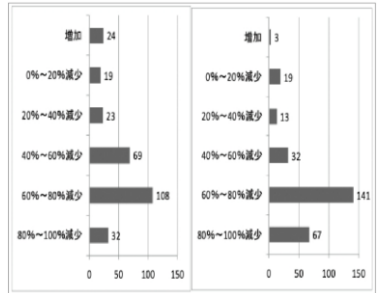
暖冬による積雪量の不足などは、スキー場の運営に影響を与えます
そこで、福井県内のスキー場の適応策の取組み事例を紹介します

雪上レジャーの現状と将来予測

気温の上昇、降雨量・降雪量の時空間分布の変化は、自然資源を活用したレジャーにおいて、活用可能な場・資源の消失や減少、活動に適した期間の変化等が生じる可能性があります。

スキー場については、現在、暖冬によって積雪量の不足や雪質の変化が生じている地域が見られ、運営に影響を生じています。将来、2031年以降、ほとんどのスキー場で積雪深が大きく減少すると予測され、積雪量の減少に伴い、来客数及び営業利益が大幅に減少する可能性があります。

このような状況において、地域によっては、降雪量の補填やスキー場設備の縮小、レジャーの多角化等など、様々な取組み（社会的要因による来客数減少への対応も含む）が進められています。今後、積雪量が減少することを見据え、経営体制の改革、事業転換といった大きな変化が求められます。



積雪量増減率別スキー場数
(左2031年～2050年、右2081年～2100年)

(出典：気候変動適応情報プラットフォーム)

今冬365スキー場におけるグリーンシーズンの活用

南越前町の今冬365スキー場では、近年の積雪量の減少や降雪時期の遅れなどが見られ、冬期のスキー場運営に影響が生じている状況でした。そこで南越前町は、今冬365スキー場が位置する、鉢伏山一帯の豊かな自然環境や史跡資源を活かし、冬期のスキー場運営にグリーンシーズンを加えた通年型レジャー施設「今冬365アウトドアビレッジ」を整備しています。

この一環として、令和7年6月に、スキー場内を通って鉢伏山山頂を目指すトレッキングコースを整備しました。

さらに、新たなキャンプ場「ASOBASE（アソベース）」をスキー場駐車場の一面に整備し、同年9月にオープンしました。広々としたプライベートサイトや電源付きオート区画サイトに加え、サニタリー棟（カフェ&ラウンジ併設）などもあり、テント泊の開放感はそのままだに、ホテルのような快適な環境が整っています。また、手ぶらでキャンプやバーベキューができるプランもあります。

今後も、天体観察棟の整備（令和8年5月オープン予定）など、更なる整備が進められる予定です。更なる積雪量の減少が予測される状況において、グリーンシーズンの活用にも力を入れることで、地域の観光資源を磨き上げる南越前町の取組み、今後の展開が注目されます。

◎ 鉢伏山山頂を目指すトレッキングコース



鉢伏山の山頂からの景色



◎ 鉢伏山キャンプ場「ASOBASE（アソベース）」



◎ 天体観察棟



(写真提供：南越前町)



第3次気候変動影響評価報告書

気候変動影響の最新評価から考える未来

環境省は、2026年2月に、「第3次気候変動影響評価報告書」を公表しました。気候変動の影響を科学的知見に基づき総合的に評価したもので、約5年ぶりの改定です。

第3次気候変動影響評価報告書とは？

この報告書は、気候変動が日本にどのような影響を与えるのかを分野別に評価したものです。具体的には、農業・林業・水産業、自然生態系、自然災害などの7分野を80項目に分類し、「重大性」、「緊急性」、「確信度(情報の確かさ)」の3つの観点から、それぞれ3段階(レベル1~3)で評価しています。

評価は ①最新かつ広範な科学的知見を反映、②影響の重大性の評価を従来の2段階から3段階に細分化、③特に強い影響を受ける地域や対象を整理、④適応策及びその効果に関する知見を整理を踏まえて実施しており、現状から将来予測にわたって、特に優先的に対応が必要な項目が明らかになっています。

今後、2026年度に予定されている国の「気候変動適応計画」の改定の際にも、この報告書は活用されます。

特に優先的に対応が必要な項目

【農業・林業・水産業】

水稲：コメの収量・品質低下
果樹：ミカン・リンゴ等果樹の栽培適地の変化
農業生産基盤：大雨による農地・農業設備への被害
沿岸域・内水漁場環境等：海水温の上昇によるワカメ等の不漁

【水環境・水資源】

水供給(地表水)：湯水の増加・農業用水等の不足

【自然生態系】

亜熱帯：珊瑚の白化現象の頻度増加
温帯・亜寒帯：海藻等の分布域の縮小・北上
分布・個体群の変動：生物の分布域の変化



白化した珊瑚
「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」
(環境省)

【自然災害・沿岸域】

洪水：洪水の発生地点数の増加
内水：内水氾濫の可能性の増加・浸水時間の長期化
土石流・地すべり・土砂流出等：時間降水量の増加による土石災害発生件数の増加



福岡県久留米市の巨瀬川氾濫(令和5年)
「災害・防災情報」6月29日から大雨
(国土交通省)

【健康】

暑熱：気温上昇に伴う熱中症による救急搬送者数・死亡者数の増加など

【産業・経済活動】 【国民生活・都市生活】

インフラ・ライフライン等：大雨・台風等による電気・ガス・水道などの寸断



熱中症による死亡者(5年移動平均)の推移
(人口動態統計から環境省作成)

報告書の全体構成・活用例

この報告書は「総説」と「詳細」で構成されており、右表に示す活用例を参考に、地方公共団体や事業者による気候変動影響の把握や適応策の検討等に活用ください。

資料名	主な内容	活用例
気候変動影響評価報告書(総説) (A4版163頁)	<ul style="list-style-type: none"> 本報告書のポイント 気候変動およびその各分野における影響の概要 近年発生した社会的関心の高い影響に関するトピック 影響評価に関する課題・展望 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体・事業者の担当者が気候変動適応に関する施策や取組を検討・判断する際の基礎資料として活用
気候変動影響評価報告書(詳細) (A4版618頁)	<ul style="list-style-type: none"> 背景・目的 影響評価の手法 気候変動の各分野における影響の詳細や評価の判断根拠、引用文献の情報 	<ul style="list-style-type: none"> 各分野における影響等の詳細や評価の判断根拠、引用文献を調べる際に詳書的に活用



温室効果ガス排出量（2023年度速報値）

県では2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で49%削減する目標を掲げ、省エネや再生可能エネルギーの導入拡大を推進しています。

最新の2023年度の温室効果ガス排出量（速報値）は、692万トン（2013年度比31%削減）となっており、基準年度である2013年度以降過去最低となりました。製造業における生産活動が減少したこと等が主な要因です。2030年度の目標に向けて概ね順調に推移していますが、家庭と業務部門において、削減が不十分であることから、エネルギー源の転換と省エネを進め、排出量を削減させる必要があります。

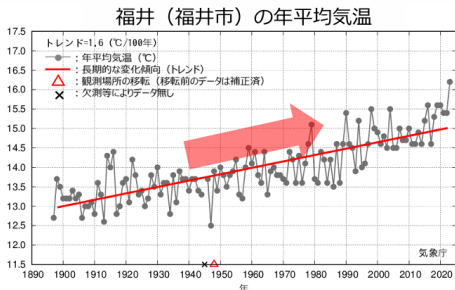


福井県の温室効果ガス排出量

新生活の春に適応を考えよう！

近年、全国で記録的な猛暑や大雨が増えるなど、気候変動の影響は年々大きくなっています。福井県でも、年平均気温の上昇に伴う、夏の熱中症リスクの上昇など、日常生活に関わる課題が増えています。

気候変動の「緩和」（CO₂削減）と合わせて、気候変動への「適応」（被害を減らす備え）が欠かせません。気候変動による生活への影響をできるかぎり小さくして、これからも豊かに暮らしていくため、ぜひ“適応策”に取り組んでみてください。



(出典：気象庁「福井県の気候変動」)

例えば、これも適応策！



田植え時期の調整



こまめな水分補給



日傘で暑さを軽減



ハザードマップで避難経路を確認



水を大切に使う

ふくecoアプリ

をダウンロードしていますぐデコ活を始めよう！



Android



AppStore

福井県気候変動適応センター
福井県庁10階 環境政策課

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号
TEL 0776-20-0301 メール kankyou@pref.fukui.lg.jp